

第22回全国消防操法大会茨城県代表選考会

～ 11月14日 県消防学校特設会場（茨城町）～



【写真説明】

①まもなく競技開始、円陣を組んで気合を入れる ②「集まれ！番号！」 ③指揮者の気合の入った号令が選手たちの士気を高める ④一瞬の気の緩みも許されない放水の瞬間 ⑤火点に向けて全力疾走 ⑥正確なポンプ操作・水圧管理 ⑦機敏で的確なホース延長 ⑧厳しいまなざしの審判員 ⑨火消し魂を見せつけた第5分団（指揮者久下、1番員大久保、2番員大関、3番員尾林、4番員酒井、補助員金子「敬称略」）

県代表選考会を終えて…

前回大会の覇者・常総市石下消防団の壁は厚かった…

第22回全国消防操法大会の出場分団を決める茨城県代表選考会が11月14日、茨城町の県消防学校で行われ、本市の第5分団（東地区）が県南北部地区代表として出場しました。

本大会は4年に一度開催され、郷土の意地と意地とがぶつかり合う、歴史的な選考会です。当日は、雨で滑りやすい路面コンディションになり、転倒する選手が続出。走る速度を落とすか否か、攻めるか守るかの選

択を迫られるなど、どのチームも普段の力が発揮できない大会となりました。

そんな中、本市消防団は、見事なホースさばきを披露し、ほぼ完璧な操法を見せました。結果は残念ながら、わずかの差で準優勝と全国大会への切符をつかむことはできませんでした。

指揮者の久下さんは「（県代表選考会）に出場できたことはとても嬉しい。ご指導をいただいた皆さんをはじめ、毎晩の訓練に付き合っていたいただいた関係者の皆さんや家族のおかげで

す。」と感謝の気持ちをかみしめていました。

3番員の尾林さんは、「ここまでできたので、やっぱり全国大会に行ってみたかった。とても悔しいですが、やることはやったので、悔いはありません」と目

頭を熱くしていました。

ポンプ操法競技とは、小型ポンプ操法とポンプ車操法があり、大会はポンプ車操法で行われました。競技は5人一組で行われ、防火水槽から吸水を行い、火点とよばれる目標に放水し、

厳しい訓練の元に築かれるもの

訓練の時間は、夜が中心となります。これは消防団員が消防職員とは異なり、本業を持ちながら地域の安全のために活動を行っているからです。大会に出場する選手は、それぞれの仕事と消防団活動、そして消防操法

大会と、限られた時間の中、二足ならぬ三足のわらじで活動しなければならぬのです。

また、訓練を指導する消防団本部の指導員、選手をまとめる分団長、選手をサポートする各分団員と本市消防団全体が選

撤収するまでの一連の手順を競います。

ポンプ車やホースの操作を速く、正確に行うだけでなく、5人のシンクロした動きなど消防団員の規律正しい動作なども評価され、冷静な行動と的確な判断が強いられる競技です。

手同様の立場で一つの目的に向かい共に活動しています。

大会で優秀な成績を収めることは、もちろん大きな目標となりますが、これまでの努力によつて培った技術・精神・きずなは、本市の防災を支える大きな力となることでしょう。